



こぶし

令和元年9月30日

第7号

支笏湖小学校

校長 小川 亮男

令和元年度 学校重点教育目標

『実践力（できる）へとつながる学校教育活動の推進』

実りの秋を迎えて

校長 小川 亮男

木々が色づき始め、枯れ葉が宙を舞う季節になりました。学校の教材園では、トウモロコシ、枝豆、ジャガイモの収穫を終え、キュウリがあと何本収穫できるかどうか。さらにミニトマト、ヘチマ、ひょうたんの収穫を残すところとなりました。昨年度、単管を打っていただいたことで、ネットで囲うことができ、鹿の食害がなくなることがわかりました。今年度は、本格的に栽培の学習をすることができ、ここ何年でもできなかった収穫を体験することができました。とても些細なことなのかもしれませんが、学校としてはとても大きな変化で、これまでできなかった長期にわたる学習ができるようになったわけです。感謝しても仕切れないほどのことなのです。6月にいただいたカブトムシの幼虫が順調に成長し、今は卵を産んでくれているかもしれません。これをきっかけに、身近な生き物への関心が高まった年にもなりました（これまでの経緯はブログをご覧ください）。学校の花壇も今年はまだ咲き誇っています。根気よく手をかければかけるだけ、それに応えてくれるのが「生」の営みです。今年度の重点目標である「実践力（できる）」のねらいでもあります。そして、来年度へつながる学習となるわけです。

過日行われた連合運動会は、晴天に恵まれ、多くの方々にご来校いただき盛大に実施できたことを嬉しく思っております。この運動会に関わる一連の取組（練習から当日の動き）で、子どもたちが成長しました。開閉開式における立ち振る舞いや紅白の団長としての動き。各種競技に対する参加姿勢。一輪車やリレーにおいてリーダーとして成功に向け努力する姿など、他の学年の子どもたちに寄り添いながら頑張っている姿が見られたのは、とても嬉しいことでした。教師に頼らず、子どもたち同士が周りとの協調し自立しようと頑張る期間となりました。こうした一人一人が活躍し成長できる場を多く設定できるのが小規模校の最大の特徴だと思います。保護者・地域の皆様には、係の仕事、競技への参加、そして子どもたちへの応援など、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

さらに支笏湖神社祭での子ども相撲、子ども神輿。私としては3年ぶり、支笏湖に来てから初めての子ども神輿でした。その後のミニバレーと、地域の伝統、地域の思いが色濃く残っている支笏湖の良さを改めて感じました。

運動会前、先生方には、支笏湖小の先生方の役割について話しました。支笏湖という環境に自分自身を置くことが大切であり、支笏湖小の教師として、「地域や保護者の熱い期待や要望が、学校の文化や伝統、校風をつくり守っていること。だからこそ、地域の伝統を守っていくことは小学校の役割であること。」を再確認してもらいました。本来どこの小・中学校においても、底辺には同じものがあります。いずれ支笏湖小を巣立っていく若い先生方に、そこを学び、今後に生かして欲しいと願うわけです。

この秋、行事などを通し支笏湖小の児童たちが大きく成長し、実をつける時期。その実はこれから、冬の間には様々なことを吸収し育ち、来年の春に新たな芽を出す。こうした営みが感じ取られるように、学校として努力していきたいと思えます。

10月11日に前期を終了し担任よりお子様に「あゆみ」が手渡されます。お子様と一緒にご覧いただき成長を確認していただき、前期の反省と後期への励みにしていただければと思います。

また、秋休み中に行われる紅葉祭りに子どもたちが鼓笛隊として参加いたします。朝や支笏っ子タイムの時間を使い、練習をしてきました。ぜひ、子どもたちの頑張りにたくさんのご声援をいただければ幸いです。前期、大変お世話になりました。後期もよろしく願いいたします。